

第5回藤沢駅前街区エリアデザイン会議 議事要旨

1 エリアデザインコンセプト案の検討

- ・コンセプトは「基本的な要素」と「個性的な要素」に整理され、北口との整合性も取れていてよい。
- ・言葉や説明は、初めて資料を見た人でもわかりやすくよい。
- ・「安全・安心」の総合案内板の事例は、「わかりやすい」の方が合うのではないか。
- ・事例は後付けの部分もあるので、齟齬がないようチューニングすればよい。安全・安心については、手すりや柵などの事例も含むのではないか。
- ・個性的な要素については、③は駅前、④は湘南、⑤は帰ってくる場所というような意味を持つように見え、ガイドラインとして面白いツールになっているのではないか。
- ・5つの要素のつながりが見えてくるとよい。
- ・「つむぐ」というコンセプトがどれだけデザインに影響するのかが気になる。「つむぐ」の要素をデザインにどう入れ込んでいけばよいのか。
- ・デザイン要素にある「わかりやすい」は、単純に分かりやすければよいものでもない。
- ・「つむぐ」をデザインするというよりは、5つのデザイン要素があり、それらをつむいで、新しい藤沢駅前をデザインしていくということかと思う。そういった説明が必要。
- ・安全・安心は形に表れにくい。滑りにくいなども安心につながる。単に事例として当てはめきれなくても言葉で説明できればよいのではないか。
- ・資料2-1の糸のダイアグラムは表現として分かりやすい。
- ・交流・にぎやかな解説の「特別感・祝祭感」という表現でまとめてしまうのが、勿体無い。文化や個性など異なるものが集まり、多様性を大切にし、つむいだ先の出会い、異なった個性の出会いなど表現できると幅ができていいのではないか。
- ・とがったものが削り取られてしまうというのはよくある。刺激や多様性、他者との出会い、つながりというのはよい。
- ・藤沢駅前はいろいろなものが集まって、クロスオーバーしたものをつむいでいくということで、コンセプトにもつながるのではないか。

2 南北自由通路のデザイン案の検討

(コンセプトとデザインの関係)

- ・「つむぐ」のコンセプトがどの程度デザインに反映されているか気になる。例えばA案は何と何をつむいでいるのか。すでに藤沢はにぎやかであり、例えば、もともとの文化と新しい文化をつむぐなど。一般の人に見せるときに、つむぐという言葉がデザインに表現されているとよい。
- ・コンセプトにあったダイヤリーが、デザイン案ではどう組み合わせられているのかなど、絵や説明があるとよいかもしれない。

(デザイン案について)

- ・自由通路のマネジメントはどうなるのか。座る場所などもあってもいいが、管理について考える必要がある。

- ・ 広告などの色彩コントロールも必要。景観面でもマネジメントできるとよい。
- ・ 天井吊り広告とサインが重なり、サインが埋もれている。C 案は A 案と違い、動線上の天井にサインがあり、わかりやすい。コンセプトとしても、安心、わかりやすいを主軸におくべき。
- ・ 広告については、ガイドラインで色やフォントなどを定めており、調整が必要となる。
- ・ C 案の案内の目立ち方に差がある。江ノ電が目立ちにくい。案内サインや広告は色合いだけでなく、つける場所についても限定する必要がある。
- ・ 構造体として、柱部にもエキスパンがくるため、デジタルサイネージを設置できるかは不明。また、A 案の天井は梁がすっきりしているが、実際には大梁がもっとたくさん入ることになるので、イメージと違ってくると思われる。
- ・ 技術的な整理は必要。広告については一定のコントロールは必要か。
- ・ 空間的にも JR 側のほうが、空間を広くとれるため JR 側についても滞留空間のあり方など、議論していきたい。

(地と図による空間構成)

- ・ 何が地で、何が図かが整理できていない。床の舗装でにぎやかにするのではなく、人の活動でにぎやかにするのではないか。
- ・ 案内が最優先のため、公共サインは地である。
- ・ 広告はエリマネの収入源ではあるのかもしれないが、来街者にとって、それがよいのかという議論はある。広告ありきのデザインでよいのか再検討が必要。
- ・ 地と図が整理されることで空間構造が現れてくる。
- ・ 広告でにぎやかというのは違う。
- ・ 今回、イメージパースが出たことで具体的な議論ができるのはよい。

以上